［招待論文：研究論文］

地域住民間のつながりを増進する地域通貨の利用による主観的ウェルビーイングの向上効果の特定

利用者の金銭観、自然とのつながり及び地域愛着に着目して

Identifying the Effects of Relationship-Oriented Local Currency Use on Subjective Well-Being

Focusing on Users' Money Perspectives, Nature Connectedness, and Place Attachment

保井 俊之
叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部学部長・教授

Toshiyuki Yasui
Professor & Dean, Department of Social System Design, Eikei University of Hiroshima

Correspondence to: yasui@eikei.ac.jp

末吉 隆彦
クウジット株式会社代表取締役社長

Takahiko Sueyoshi
CEO, Koozyt, Inc.

江上 広行
株式会社 URUU 代表取締役社長

Hiroyuki Egami
CEO, URUU Co., Ltd.

高尾 真紀子
法政大学大学院政策創造研究科教授

Makiko Takao
Professor, Graduate School of Regional Policy Design, Hosei University

Abstract: 本研究は地域住民間のつながりを増進する地域通貨の利用者が、利用の前後で主観的ウェルビーイングをどう変化させるか、その効果を利用者それぞれの金銭観、自然とのつながり及び地域愛着との関連に着目しつつ特定することを目的としたものである。神奈川県鎌倉市にある、地域住民間のつながりを増進する地域通貨プラットフォームを実証フィールドとして実証実験を行った結果、筆者らは、地域住民間のつながりを増進する地域通貨の使用により、使用インセンティブの付与に関わりなく、利用者の短期的ウェルビーイングが有意に向上し、長期的ウェルビーイングの向上も有意傾向であることを明らかにした。さらに、特定の金銭観が利用者のウェルビーイングに負の影響を与え、自然とのつながり及び地域愛着はウェルビーイングと近いつながりがあることがわかった。

This study is to identify how users of relationship-oriented local currencies, which promote relationships among local residents, change their subjective well-being before and after their use, focusing on the relationship between their views of money, their nature connectedness, and their place attachment to the community. Using a relationship-oriented local currency platform in Kamakura City, Kanagawa Prefecture, as the empirical field, the authors unveiled that the use of such relationship-oriented local currency significantly improved short-term well-being and, to certain extent long-term well-being, regardless of the incentives given for their use. They further found that certain financial views had a negative impact on users' well-being, while nature connectedness and place attachment were found to be closely linked to well-being.

Keywords: 地域通貨、主観的ウェルビーイング、金銭観、自然とのつながり、地域愛着
local currency, subjective well-being, money views, nature connectedness, place attachment

1　課題

1.1　背景と目的

ウェルビーイングを地域政策のアウトカムとして掲げる地方自治体が、2020 年代に入り急増している（保井 , 2023）。ウェルビーイングとは、人生に関する認知的及び心理的な評価（Diener, 2000）であり、人生及び自らの経験に対する評価を含む良好な心の状態（OECD, 2013）と定義され、身体的及び精神的のみならず、社会的にもすべてが満たされた状態（WHO, 1946）を指す。

ウェルビーイング研究はこれまで、主としてポジティブ心理学（Seligman & Csikszentmihalyi, 2000）の学問領域で、個人の心的状態を主要な研究対象

としてきた。しかし、国連総会が 2015 年に国連の持続可能な開発目標（SDGs, United Nations, 2015）に合意し、その目標 3 にウェルビーイングを掲げたことなどから、ポジティブ心理学 3.0（Lomas et al., 2021）として、集団、地域及び社会のウェルビーイングを研究対象に拡大する方向にある。この動きと並行してグローバルな政策形成分野でも、地域や社会のウェルビーイングを、政策アウトカムに掲げる傾向がある。OECD は、教育の価値を学生及び集団のウェルビーイング獲得の支援に置き（OECD, 2018）、WHO はコロナ禍を踏まえ、持続可能なウェルビーイング社会の創造が急務と宣言している（WHO, 2021）。

このような動きを受け、日本でも、国及び地域の公共政策にウェルビーイングの向上を目標として掲げる動きが加速している。2020 年から開始されている、国のスーパーシティ・デジタル田園都市構想において、ウェルビーイングと持続可能な環境・社会・経済を実現するまちづくりの構想が打ち出された。日本政府の予算の大綱を定める、いわゆる骨太の方針で、ウェルビーイングを各省庁の計画の KPI に取り入れる記述が 2021 年から盛り込まれている。さらに富山県、福岡市、横浜市及び鎌倉市などで、中期計画にウェルビーイングの実現を掲げる自治体が増加している（保井 , 2023）。そして 2023 年 5 月に閣議決定された第 4 期教育振興基本計画（文部科学省 , 2023）では、日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上がうたわれ、地方自治体の教育基本計画や教育大綱への反映が今後見込まれる。

地方自治体が実施する地域政策については、経済雇用政策の実施が直接、または交流安心政策の実施から派生する地域愛着と地域活動を経由して、地域住民の主観的ウェルビーイングを向上させることが知られている（高尾ら , 2018）。とりわけ地域住民の主観的ウェルビーイング向上には、地域住民間のつながりの増進が重要（末吉ら , 2018）であり、そのつながりを促進する政策手段として、地域住民間のつながりを増進する地域通貨（以下「つなぐ地域通貨」と称す）の果たす役割に近年注目が集まっている（保井ら , 2021a）。つなぐ地域通貨とは、必ずしも経済的価値の交換のために機能せず、地域住民間のつながりの拡大及び深化を志向（泉・中里 , 2016）し、地域住民の自発的なコミュニティのための経済社会活動を通じて流通し、地域住民の意識と

行動変容をもたらす（栗田 , 2020）地域通貨を指す。

本研究は近年関心が高まっている、つなぐ地域通貨の利用と主観的ウェルビーイングに関する問題意識を踏まえ、つなぐ地域通貨の利用者が、利用の前後で主観的ウェルビーイングをどう変化させるか、それぞれの金銭観、自然とのつながり及び地域愛着との関連に着目しつつ、その効果を特定することを目的とする。

1.2　先行研究及び本研究の新規性

地域通貨とは、地域コミュニティの中で、日本円などの法定通貨とは別に自主的に流通し、地域活性化を図るとともに、地域コミュニティのつながりの構築のために、信頼や協同関係の醸成、価値や関心の共有、感情の表現及び伝達を実現する相互扶助的クーポン（西部 , 2013）である。しかしこれまでの地域通貨は紙製カードでの流通が主であり、また多くの場合に法定通貨と等価交換できるよう設計されていたため、事務局の運営負担が重いことや通貨の利用者の消費者的人格を刺激してしまうこと（影山 , 2015）などから利用が伸びず、2005 年の発行数のピーク 306 件からその後漸減に転じていた（泉 , 2013）。

しかし 2011 年の東日本大震災からの復興に当たり、地域コミュニティの住民間のつながりの復元が喫緊の政策課題と認識された（櫻井・伊藤 , 2013）ことから、地域通貨を地域コミュニティの住民間のつながりの拡大及び深化のためのコミュニティツールとして活用する動きが再び出てきた（栗田 , 2020; 泉・中里 , 2021）。

この動きは、米国などで 2010 年代から提唱されるようになった地域循環型経済モデルの提案及び実践運動（Schuman, 2012; Impact Compass, 2016）の台頭にも影響されている。さらに、ファイナンスに iPhone アプリケーションやブロックチェーンなどの分散型情報テクノロジーを応用するフィンテックの採用（河合 , 2018）が日本で 2015 年以降に本格化したことから、高度情報通信テクノロジー （ICT）に基づき電子的プラットフォームを形成する、地域通貨プラットフォームが日本で 10 を超えて出現し、運営されるようになった（保井ら , 2021b）。

ICT 活用型のつなぐ地域通貨の多くは、利用者の主観的ウェルビーイング向上と関係のある、利他、体験及びつながりの行動（保井ら , 2021a）や互酬性から来る動機づけ（前田ら , 2021）に着目した設計となっている。しかし、これらの地域通貨が、利用者の主観的ウェルビーイングをどう変化させるのかについては、研究は萌芽段階にある。

また、集団や地域のウェルビーイング研究では、身体的、精神的及び社会的ウェルビーイングに加え、ファイナンシャル・ウェルビーイング（Shim et al., 2009）に近年関心が及ぶようになっている。ファイナンシャル・ウェルビーイングとは、現在及び将来の債務が支払い可能であり、自らの経済に安心感を持ち、人生を楽しむための選択ができる状態（USCFPB, 2015）を指す。個人の有する金銭観は、貨幣使用や資産形成に対する無意識のバイアスを形成し、主観的なファイナンシャル・ウェルネス実現の因子のひとつとなる（Klontz et al., 2011）。しかし、地域通貨の利用に当たり利用者がどのような金銭観を持っているかについては、地域通貨の流通と貨幣意識の関連を実証分析した小林ら（2010; 2011）の研究成果からその後、必ずしも大きく進展せず、特に地域通貨の利用者の金銭観と地域通貨の利用に伴う主観的ウェルビーイングの変化がどう関連するかについては、研究の蓄積が今後期待される分野となっている。

さらに地域の主観的ウェルビーイング研究において近年注目されているのが、自然とのつながり（Howell et al., 2011）及び地域愛着（Scannell & Gifford, 2010）である。密接な自然とのつながりは、高い主観的ウェルビーイングと相関する （松村, 2014; White et al., 2017）。また地域愛着の高い地域は、地域活動が活発（鈴木・藤井 , 2008）であり、主観的ウェルビーイングが高い（高尾ら , 2018）。つなぐ地域通貨の多くが、地域の互助と福祉、地域の自然保護や文化的価値の実現など、SDGs の多くに含まれる社会的価値の実現を志向しているが、自然とのつながりや地域愛着がつなぐ地域通貨の利用者の主観的ウェルビーイングとどのような経路で関連しているのかについては、研究は萌芽段階にある。

したがって、上記のつなぐ地域通貨及び主観的ウェルビーイングに関する近年の研究動向を俯瞰的に統合し、ファイナンシャル・ウェルビーイング、並びに自然とのつながり及び地域愛着という地域ウェルビーイングの実現要素の可視化の観点から、地域通貨利用が利用者の主観的ウェルビーイングをどのように変化させるかを分析するところに本研究の新規性がある。

1.3　分析枠組み

上記の先行研究を踏まえ、つなぐ地域通貨の利用が、利用の前後でどのように利用者の主観的ウェルビーイングを変化させるのか分析する。さらに、Klontz et al.（2011）の 4 つの金銭観（金銭地位、金銭崇拝、金銭忌避及び金銭警戒）のうちどの金銭観が優勢か、また自然とのつながり及び地域愛着に関してどう感じているかについて、利用の前に明らかにすることにより、これらの観点と地域通貨利用及び主観的ウェルビーイングとの関連を明らかにする。

本研究の分析枠組みを図 1 に示す。

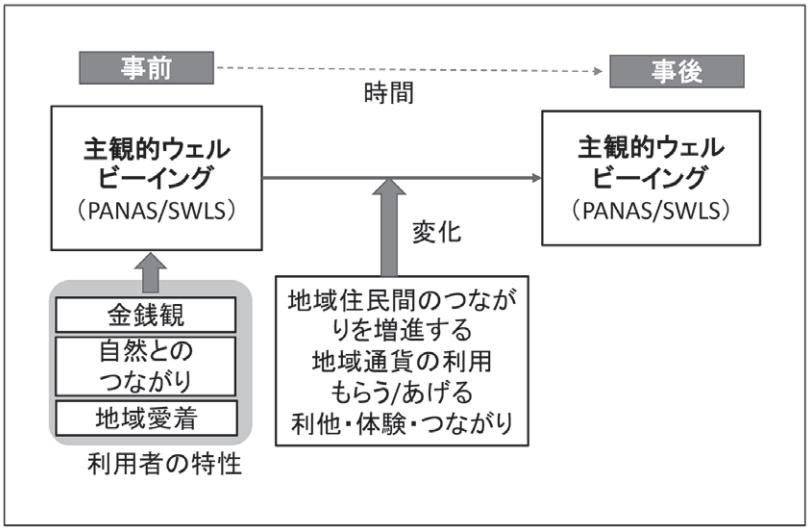

図 1　分析の枠組み

2 方法

2.1 調査フィールドと調査方法

本研究は、つなぐ地域通貨（保井ら , 2021b）の代表例として、このような地域通貨をサーバ型電子通貨として全国 24 都市においてアプリケーションベースで提供している「まちのコイン」の、神奈川県鎌倉市のプラットフォームを、実証実験の対象として選定した。「まちのコイン」は、法定通貨との換金機能を持たないため、利用者の消費者的人格（影山 , 2015）を刺激しない、一定期間内にポイントが消滅する、地域の社会課題解決のための行動にポイントを付与する、利用者間でポイントの贈与機能がある、など、地域の社会課題解決の推進と利用者間の関係構築と拡大に特化した地域通貨である。

また神奈川県鎌倉市は、「まちのコイン」の主要かつ最も歴史の長いプラットフォームの所在地であるとともに、首都圏に位置する人口 17 万人の中都市であり、豊かな自然及び歴史文化の旧跡を訪ねる多くの観光客及び一時滞在者を関係人口（田中 , 2021）として有しており、日本の地方都市、とりわけ中都市の代表性が認められるため、実証フィールドとした。

調査対象としては、「まちのコイン」鎌倉の通貨クルッポの登録者からモニターを公募し、モニターには、主観的ウェルビーイングを使用時に感じる傾向が高い使用対象（保井ら , 2021a）としてあらかじめ設定した、利他、体験、及びつながりの計 290 使用対象を利用した場合にボーナス・ポイントを受け取るというインセンティブを与えることとした。モニターに対して、事前アンケート（2022 年 9 月 20 日～ 10 月 24 日）及び事後アンケート（2022 年 11 月 29 日～ 12 月 28 日、2023 年 2 月 13 日～ 28 日）を行い、地域愛着及び主観的ウェルビーイングの変化を計測した。モニターへのインセンティブの付与期間は、2022 年 11 月 1 日～ 28 日である。

質問項目は、属性（年代、性別、職業）、居住地、居住年数（事前のみ）、地域愛着、地域通貨の利用頻度、地域通貨の利用理由、地域通貨の利用の変化（事後のみ）、ボーナス・ポイントへの意識（事後のみ）、主観的ウェルビーイング、及び金銭観、さらに自由回答として、鎌倉への意識及び鎌倉で幸せを感じるとき（事前のみ）とした。

2.2　測定尺度

地域愛着の測定尺度としては、地域愛着尺度（鈴木・藤井 , 2008）及びシビックプライド尺度（伊藤 , 2017）を、より地域通貨のコンテキストに適応するよう、一部修正して用いた。

主観的ウェルビーイングの測定尺度としては、短期的ウェルビーイングの指標とみなされることが多いポジティブ・ネガティブ感情尺度（Positive and Negative Affect Scale: PANAS）の日本版（佐藤・安田 , 2001）、及び長期的ウェルビーイングの指標とみなされることが多い人生満足尺度（Subjective Satisfaction With Life Scale: SWLS, Diener et al., 1985）を用いた。

金銭観については、Klontz et al.（2011）の Klontz Money Script Inventory の 4 つの金銭観（金銭地位 ; お金を持っている人はえらい、金銭崇拝 ; もっとお金があれば幸せになれる、金銭忌避 ; お金を稼ぐことは汚いことだ、金銭警戒 ; お金は節約するものだ）を回答者に簡潔に尋ねる質問に基づく 5 点法の尺度を作り、使用した。

3　結果

3.1　有効回答数

アンケートを行い、事前 174 及び事後 89 の有効回答を得た。事後の回答者 89 名のうち、ボーナス・ポイントの対象となる使用対象を利用したモニターは 22 名、利用していない回答者は 67 名だった。

事前アンケートの回答者の属性については、性別は男性 35%、女性 63%、無回答 2%、年代は 20 歳代 7%、30 歳代 22%、40 歳代 27%、50 歳代 32%、60 歳代 10% など、居住地域は鎌倉市内が 73%、鎌倉市以外の神奈川県内が 19% など、職業は会社員 39%、契約・派遣社員 5%、パート・アルバイト 10%、公務員・団体職員 12%、自営業・自由業 12%、専業主婦・主夫 10%、などだった。

3.2　金銭観に関する記述統計

事前アンケートの回答者の金銭観については、当該価値観の否認（そう思わない及びあまりそう思わないの回答合計）について、金銭地位（お金を持

っている人はえらい）53.8%、金銭崇拝（もっとお金があれば幸せになれる）25.8%、金銭忌避（お金を稼ぐのは汚いことだ）90.8%、金銭警戒（お金は節約するものだ）31.6%、となっており、金銭忌避の金銭観への否認が際立っている。また当該価値観の是認（そう思う及びややそう思うの回答合計）については、金銭崇拝が 52.9% と際立って高い。回答者の金銭観に関する記述統計を表 1 に示す。

表 1　事前アンケート回答者の金銭観

(%)	そう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	そう思う
金銭地位 (お金を持っている人はえらい)	24.1	28.7	35.1	11.5	0.6
金銭崇拝 (もっとお金があれば幸せになれる)	6.3	19.5	21.3	40.8	12.1
金銭忌避 (お金を稼ぐことは汚いことだ)	68.4	22.4	8.6	0.6	0.0
金銭警戒 (お金は節約するものだ)	14.4	17.2	25.9	31.6	10.9

N=174

3.3　事前アンケート重回帰分析

事前アンケートの結果について、主観的ウェルビーイングを従属変数とする重回帰分析を行った。

その結果、短期的ウェルビーイングを表すポジティブ感情について、性別（女性）及び利用頻度が正で、利用者の年代及び金銭観のうち金銭警戒が負で、それぞれ有意だった。さらに、地域愛着及び地域通貨の贈与量が正で、有意傾向だった。また、長期的ウェルビーイングを表す人生満足尺度について、性別（女性）、地域愛着、利用理由「お店と人とつながれる」が正で、年代及び金銭観のうち金銭崇拝が負で、それぞれ有意だった。さらに利用理由「地域のことを知るため」が正で有意傾向だった。主観的ウェルビーイングに関する重回帰分析の結果を、表 2 に示す。

表２　主観的ウェルビーイングを従属変数とした重回帰分析の結果

		ポジティブ感情	人生満足尺度
		β	β
個人属性	年代	-.21**	-.14*
	性別（女性ダミー）	.19**	.16*
金銭観	金銭地位	-.09	-.02
	金銭崇拝	-.06	-.25***
	金銭忌避	-.02	.10
	金銭警戒	-.14*	-.09
地域愛着		.14†	.24***
地域通貨	利用頻度	.27***	.12
	もらう量	.00	.05
	あげる量	.13†	.12
利用動機	お得だから	.21	.30
	社会の役に立つから	.17	.30
	お店や人とつながれるから	.26	.40*
	ポイントを貯っているから	-.08	-.02
	地域通貨に興味があるから	.07	.24
	地域のことを知るため	.07	.26†
	*F*値	4.70***	5.20***
	調整済R^2	.27	.29

*** p＜0.001, ** p<0.01 *. p<0.05, † p<0.10

3.4　事前事後比較分析

事前事後のアンケート調査のデータから、地域愛着及び主観的ウェルビーイングに関する事前事後の比較分析として対応のあるｔ検定を行った。その結果、実証実験の前後のモニターの地域愛着には変化がなかった。主観的ウェルビーイングについて、ポジティブ感情は有意に上昇し、ネガティブ感情に変化はなかった。また人生満足尺度はわずかに上昇し、有意傾向を示した。また、ボーナス・ポイント対象の体験の有無による差は見られなかった。比較分析の結果を表３に示す。

表３　事前事後の比較分析（対応のあるｔ検定）結果

		事前		事後		
	n	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値の差
地域愛着	67	4.30	0.52	4.33	0.54	-0.03
ポジティブ感情	67	3.54	0.99	3.74	1.05	-0.20*
ネガティブ感情	67	2.41	0.86	2.35	0.81	0.07
人生満足尺度	89	23.00	5.20	23.61	5.36	-0.61†

*:p＜0.05　†:p＜0.1

3.5 テキスト分析

クルッポ利用者の地域愛着のよりどころを特定するために、事前アンケートの自由回答欄への記述をコーディングし、回答に用いられた主語及び述語のテキスト分析を、共起ネットワーク分析により行った。自由回答欄での設問は、鎌倉への意識及び鎌倉で幸せを感じるときである。鎌倉への意識については、歴史・自然、地域・居場所、シビックプライド及び人とのつながり、の主述語ネットワークが表出した。鎌倉で幸せを感じるときについては、自然を感じる、歴史に触れる、身近な海・山での活動、人とつながる、の主述語ネットワークが表出した。テキスト分析の結果を図2と図3にそれぞれ示す。

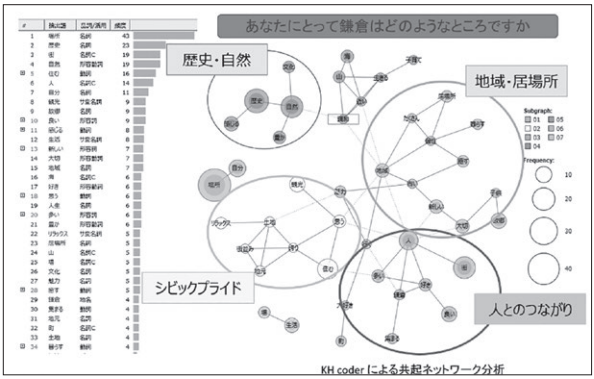

図２　テキスト分析の結果：鎌倉への意識

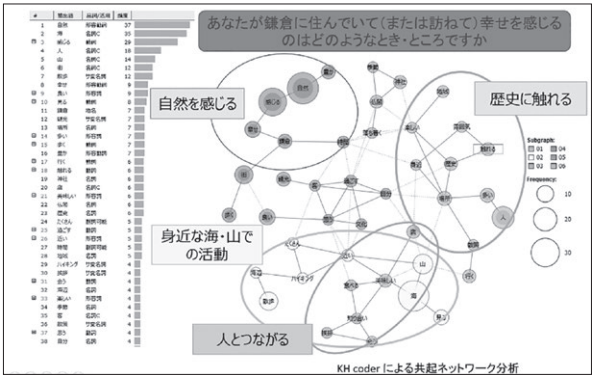

図３　テキスト分析の結果：鎌倉で幸せを感じるとき

4　考察

本研究の分析結果から明らかになったことは、次の3つである。

第一に、利用者の金銭観のうち、「金銭警戒（お金は節約するものだ）」は短期的ウェルビーイングに負の影響、さらに「金銭崇拝（もっとお金があれば幸せになれる）」は長期的ウェルビーイングに負の影響を与えている。

第二に、クルッポ利用者の鎌倉のイメージは「歴史・自然」「地域・居場所」及び「シビックプライド」「人とのつながり」という4つのクラスターに分かれ、また鎌倉でウェルビーイングを感じるのは「自然を感じる」「歴史に触れる」「身近にある海や山での活動」及び「人とつながる」の4つのクラスターとなっている。

第三に、保井ら（2021a）がウェルビーイングを感じる地域通貨の設計要件として挙げた、利他、体験、つながりに関するボーナス・ポイント付与による利用へのインセンティブ付けは、利用者の主観的ウェルビーイングの変化に有意な影響を与えなかった。

上記3点の含意については、最初の「金銭警戒」と「金銭崇拝」の主観的ウェルビーイングとの負の関係、及び第三のボーナス・ポイント付与による利用へのインセンティブ付けが、利用者の主観的ウェルビーイングの変化と無相関であったことが注目される。このことは、利用のインセンティブ、例えば「お得だから」などと経済的価値を地域通貨に求める利己的動機よりも、地域課題の解決や地域のつながりなどソーシャルキャピタルの醸成に資する利他的動機に沿った利用が促進されるという、つなぐ地域通貨の使われ方（高尾ら，2023）に整合的である。さらに、利用者の金銭観のうち、金銭警戒は利用者の短期的ウェルビーイング、金銭崇拝は利用者の長期的ウェルビーイングに、それぞれ負の影響を与えていることに着目が必要である。この結果は今回の鎌倉での実証実験に特異なものとは必ずしも言えないが、法定通貨から生起されることの多い、これら金銭に対する価値観が、地域通貨の使用時のウェルビーイングの感じ方に影響を与えないよう、地域通貨と法定通貨の交換などのリンクをできるだけ直接的なものでないようにすることが適切であることを示唆している。今回の調査対象の「まちのコイン」鎌倉の通貨クルッポは、法定通貨とのリンクを持たない特色があり、この示唆と整合的な運用がされている。

また、つなぐ地域通貨の利用者が、歴史・自然、地域・居場所、シビックプライド及び人とのつながりなどを身近に感じ、自然、歴史、身近な海や山での活動、人とつながることを自らのウェルビーイングと近しく認識していることは、利用を通じて自然、歴史、文化及び地域住民間のつながりを増進するような地域通貨の設計を行うことが、地域政策として意義があることを示唆している。

5 結論と今後の研究課題

5.1 結論

本研究は、つなぐ地域通貨の利用者が、利用の前後で主観的ウェルビーイングをどう変化させるか、それぞれの金銭観、自然とのつながり及び地域愛着との関連に着目しつつ、その効果を特定した。つなぐ地域通貨の使用により、使用インセンティブの付与に関わりなく、使用者の短期的ウェルビーイングが有意に向上し、長期的ウェルビーイングの向上も有意傾向であったことを明らかにした。また利用者の金銭観のうち、金銭警戒は利用者の短期的ウェルビーイング、金銭崇拝は利用者の長期的ウェルビーイングに、それぞれ負の影響を与えていることがわかった。さらに、利用者が感じる自然とのつながり及び地域愛着は、利用者の主観的ウェルビーイングと関連することが明らかになった。

5.2 今後の研究課題

今後の研究課題は次の 2 つである。

第一に、つなぐ地域通貨の利用が利用者の主観的ウェルビーイングに与える影響についてさらに標本数を増加し、また他の地域でも実証実験を行い、一般性と汎用性についてよりロバストな科学的知見を蓄積していくことである。

第二は、本研究が明らかにした、地域通貨の利用者が感じる自然とのつながり及び地域愛着と主観的ウェルビーイングの近接性に着目し、地域の自然、歴史及び文化などの特徴に適合した地域通貨の設計を進めることである。特に、地域通貨の利用により自然をより身近に感じ、歴史及び文化により触れ

ることができる要件設定は重要であり、例えば、自然、歴史、文化とのつながりを促進する、自然保護及び環境配慮行動に人とのつながりを埋め込むなどの地域通貨の設計が期待される。

利益相反

本稿の発表に当たり該当する利益相反はない。

謝辞

本研究は、公益財団法人三菱 UFJ 信託奨学財団の研究助成、及び JST 共創の場形成支援プログラム JPMJPF2111 の支援を受けたものです。また株式会社カヤックから調査協力を得ました。記して謝意を表します。

参考文献

泉留維（2013）「日本における地域通貨制度：その展開と将来」西部忠（編著）『福祉＋α③ 地域通貨』ミネルヴァ書房 ., pp.234-243.

泉留維、中里裕美（2016）「日本における地域通貨の実態について：2016 年稼働調査から見えてきたもの」『専修経済論集』52(2), pp.39-53.

泉留維、中里裕美（2021）「コロナ禍における日本の地域通貨について：2021 年稼働調査から見えてきたもの」『専修経済論集』57(3), pp.23-40.

伊藤香織（2017）「都市環境はいかにシビックプライドを高めるか―今治市を事例とした実証分析―」『都市計画論文集』52(3), pp.1268-1275.

Impact Compass（2016）「地方創生の新境地 !?「地域経済循環型経済モデル×インパクト投資」という可能性」http://impactcompass.org/neighnorhood-economy-model/（2023 年 9 月 25 日アクセス）

影山知明（2015）『ゆっくり、いそげ：カフェからはじめる人を手段化しない経済』大和書房 .

河合祐子（2018）「フィンテック：現状とこれから」日本銀行ウェブサイト , https://www.boj.or.jp/paym/fintech/rel180314b.pdf（2023 年 9 月 25 日アクセス）

栗田健一（2020）『コミュニティ経済と地域通貨』専修大学出版局 .

小林重人、栗田健一、西部忠、橋本敬（2011）「地域通貨流通実験にみるミクロ・メゾ・マクロ・ループの流れ ―メゾレベルの貨幣意識を中心にして―」『Discussion Paper, Series B』96, pp.1-17.

小林重人、西部忠、栗田健一、橋本敬（2010）「社会活動による貨幣意識の差異：地域通貨関係者と金融関係者の比較から」『企業研究』17, pp.73-91.

櫻井常矢、伊藤亜都子（2013）「震災復興をめぐるコミュニティ形成とその課題」『地域政策研究』15(3), pp.41-65.

佐藤徳、安田朝子（2001）「日本語版 PANAS の作成」『性格心理学研究』9, pp.138-139.

末吉隆彦、保井俊之、飛鳥井正道、江上広行、本條陽子、前野隆司（2018）「地域経済

をめぐる二つの対立的貨幣観をテーマにした協創型ビジネスゲームにおける地域住民の内的活力の分析：主観的幸福の 4 因子モデルによる定量評価を通じて」『地域活性研究』9, pp.174-183.
鈴木春菜、藤井聡（2008）「地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究」『土木計画学研究・論文集』25(2), pp.357-365.
西部忠（編著）（2013）『地域通貨』ミネルヴァ書房 .
高尾真紀子、保井俊之、山崎清、前野隆司（2018）「地域政策と幸福度の因果関係モデルの構築：地域政策の評価への幸福度指標の活用可能性」『地域活性研究』9, pp.55-64.
高尾真紀子、末吉隆彦、江上広行、磯崎隆司、保井俊之（2023）「地域通貨の利用が利他とつながりを通じて主観的ウェルビーイングを向上させる経路：関係性志向の地域通貨プラットフォームを実証フィールドとして」『地域活性研究』19, 印刷中 .
田中輝美（2021）『関係人口の社会学：人口減少時代の地域再生』大阪大学出版会 .
前田拓生、阿部嘘一、保井俊之（2021）「群馬県西毛地域の共創と活性化に資する地域通貨の可能性についての調査研究」『生活経済研究』54, pp.29-43.
松村治（2014）「自然とのふれあいが多面的な主観的 well-being に与える影響について：地域社会に対するポシティブな認知を含めて」『健康心理学研究』27(2), pp.113-123.
文部科学省（2023）『教育振興基本計画』令和 5 年 6 月 16 日 閣議決定 , 文部科学省ウェブサイト https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm（2023 年 9 月 19 日アクセス）
保井俊之、末吉隆彦、磯崎隆司、飛鳥井正道、山川麻美、江上広行、本條陽子、前野隆司（2021a）「主観的ウェルビーイングを向上させる地域通貨の社会システムデザイン―偏相関分析による貨幣使用と主観的ウェルビーイングの直接的相関要素の特定を通じて―」『日本システムデザイン学会誌』1(1), pp.43-57.
保井俊之、早田吉伸、前田拓生、前野隆司、阿部嘘一、新井和宏、江上広行、末吉隆彦、古里圭史、本條陽子（2021b）「東日本大震災後のフィンテック等 ICT テクノロジーを用いた主観的 well-being 向上に資する地域通貨モデルの特徴分析」『地域活性学会東根特別大会予稿集』.
保井俊之（2023）「『ウェルビーイングなまちづくり』の時代が来た：居住先として選ばれる自治体になるために」『月刊ガバナンス』2023 年 5 月号 , pp.14-16.

Diener, E. (2000) “Subjective well-being: The science of happiness and a proposal for a national index”, *American Psychologist.* 55(1), pp.34-43.
Diener, E., Emmons, R.A., Larsen, R.J., Griffin, S. (1985) “The Satisfaction with Life Scale”, *Journal of Personality Assessment.* 49(1) , pp.71-75.
Howell, A.J., Dopko, R.L., Passmore, H-A, Buro, K. (2011) “Nature connectedness: Associations with well-being and mindfulness”, *Personality and Individual Differences.* 51(2), pp.166-171.
Klontz, B., Britt, S., Mentzer, J., Klontz, T. (2011) “Money Beliefs and Financial Behaviors: Development of the Klontz Money Script Inventory”, *Journal of Financial Therapy*. 2(1), pp.1-21.
Lomas, T., Waters, L., Williams, P., Oades, L.G., Kern, M.L. (2021) “Third wave positive psychology: broadening towards complexity”, *Journal of Positive Psychology*. 16(5), pp.660-674.
OECD (2013) *OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being*, OECD Publishing, https://doi.org/10.1787/9789264191655-en, p.10.

OECD (2018) *OECD Future of Education and Skills 2030 Conceptual learning framework Concept note: OECD Learning Compass 2030*, OECD Publishing, https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD_Learning_Compass_2030_concept_note.pdf (Accessed on September 25, 2023)

Scannell, L. & Gifford, R. (2010) "Defining place attachment: A tripartite organizing framework", *Journal of Environmental Psychology.* 30, pp.1-10.

Schuman, M. (2012) *Local Dollars, Local Sense: How to Shift Your Money from Wall Street to Main Street and Achieve Real Prosperity*, White River Junction, VT: Chelsea Green Publishing.

Seligman, M.E.P. and Csikszentmihalyi, M. (eds.) (2000) "Positive Psychology", *American Psychologist.* 55(1).

Shim, S., Xiao, J.J., Barber, B.L., Lyons, A.C. (2009) "Pathways to life success: A conceptual model of financial well-being for young adults", *Journal of Applied Developmental Psychology*. 30, pp.708-723.

United Nations Department of Economic and Social Affairs (2015) "United Nations Sustainable Development Goals", web-site of UNSDGs, https://sdgs.un.org/goals (Accessed on September 25, 2023)

United States Consumer Financial Protection Bureau (2015) "Financial well-being: The goal of financial education", web-site of USCFPB, https://files.consumerfinance.gov/f/201501_cfpb_report_financial-well-being.pdf (Accessed on September 25, 2023)

White, M.P., Pahl, S., Wheeler, B.W., Depledge, M.H., Fleming, L.E. (2017) "Natural environments and subjective wellbeing: Different types of exposure are associated with different aspects of wellbeing", *Health & Place.* 45, pp.77-84.

World Health Organization (1946) *Constitution of the World Health Organization*, Website of the World Health Organization, https://www.who.int/about/governance/constitution retrieved (Accessed on September 25, 2023)

World Health Organization (2021) *The Geneva Charter for Well-being, December 21, 2021*, https://www.who.int/publications/m/item/the-geneva-charter-for-well-being (Accessed on September 25, 2023)

〔受付日　2023. 9. 30〕